

魚類の生活色に就いて(第10)

黒田長禮

On the life colors of some fishes—X

Nagamichi KURODA

(144) ハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (L.) 1946年11月19日沼津市志下の夜の手縄網に入った中幼魚3点を入手した。全長46.5~66.5, D. の糸部の全長45~70 mm. 虹彩は銀色で、上方は褐色。体側の地色は白色に僅かに淡蒼色を帶び、吻と額は多少オリーブを帶び、幼魚の為め眼上に稍々斜の暗褐色小帶斑がある。上下唇は少しく暗色。D. の第1~第3棘の

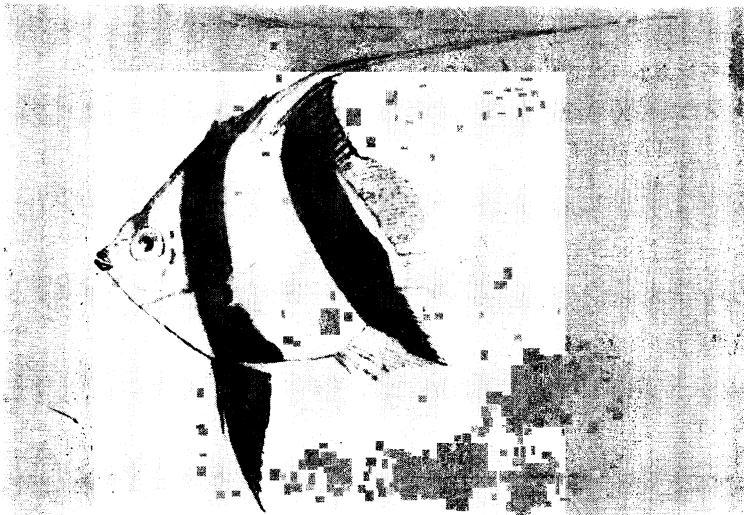


Fig. 1. ハタタテダイ 中幼魚 志下 全長 57 mm. 著者原図

基部から鰓蓋骨後半及びP. 基部を通ってV. 基部に及ぶ巾広の1黒横帯があり、多少前方に半円形をなしている。次に第2横帯はD. 第5~8或は9棘から体後半を斜に下方に向い、A. 後半部に達する。此帶とD. 軟条部との間の小淡色部には幾分淡桃色を帶びる。鰭を見るにD. 棘部中第1~3は短かく黒く、第4は外縁基部が少し黒く、他は頗る延長して白色、これにも幾分淡蒼色を基部に帶びる。第5から残り大部分の棘は黒く、幾分黄色を帶び、その他は第2斜横帯の上部にも加味する。その他の残りはオリーブ黄色で基部に少しく黒味があり、そしてD. 軟条部は淡黄色で美しい。C. も全く淡黄色、P. も尚も淡い淡黄色で、基部に著しい黒斑がある(横帯内にある)。V. は先端鋭く尖り真黒色。A. は前半(多少半より多い)は白色、後半は真黒色目立ち、第2斜横帯に連続する。

(145) ギマ(方言ムギハズ) *Triacanthus brevirostris* (T. & S.). 1946年9月23日志下

沖イワシ夜網に入ったその 1 点（全長 115.5 mm）を得た。中幼の為め一体に淡色。背面は帶淡黄オリーブ色で、体の中央辺以下尾柄に向い幾分淡紅色光がある。体中央以下は大部分銀白色に少しく淡黄の光がある。尾柄部は白色強く、上方との境は鮮明。体の前方程、境は稍々不鮮明となる。腹部は純銀白色。顎側は幾分黃白色、上下唇と喉辺は淡桃色を帯びる。額は淡肉色に暗灰色の線斑があり、上唇の辺にも暗灰色を有する。眼の前上方は暗褐色。ID. の黒斑（第 1 棘は基部 1/3 黒く、他の短棘は膜共に黒い）に接し 1 暗褐色斑がある。IID. は淡灰色（膜共）、P. は黄色、V. 1 棘は白色で先端が少し淡桃色、A. は白色、C. は黄色で、基底に暗灰色を帯びる。虹彩は銀白色、上下両方に各 1 桃色の半円斑がある。体には粘液が多い。

(146) アミモンガラ *Canthidermis rotundatus* (PRÓCE). 1953 年 8 月 24 日志下海岸で拾得 1 点（全長 105、体長 87、体高 41 mm）。これは沖のイワシ夜網に入ったものらしい。体は蒼黒色〔田中博士は紫黒色と発表〕に多数の淡蒼色小円点を散在する。腹方は不規則に淡色部があり、何れも淡蒼色からなる。ID. は III で膜共黒色、第 1 棘上端のみ擬白色、IID.、A.、C. も蒼黒色で、この 3 鰭には少数の淡蒼色点を有し、各鰭の縁が特に黒い。P. は灰色、鰭条の基部は黒い。虹彩は淡黄色。

田中氏の成魚（300 mm）の図に比すれば体が一体につまり、ID. と A. とに淡色が殆んどない点を異する。腹方の淡色は幼魚程少ない。C. は開くと円形で、成魚の様に凸形ではない。

(147) ナメモンガラ（ゴトウモンガラ）*Xanthichthys lineopunctatus* (HOLLARD). 1955 年 7 月 27 日伊豆七島銭洲島（北緯 33°56' 東経 138°49'）附近の水深 12~18 米（根）で捕獲の 3 点を入手した。漁獲者は杉浦明・福本正之両君である。測定

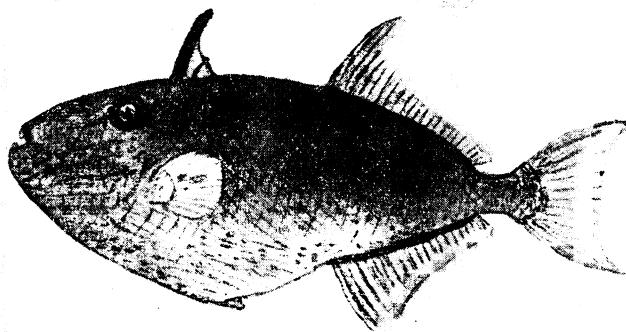


Fig. 2. ナメモンガラ（♂）伊豆七島銭洲島 全長 270 mm. 著者原図

性	全長	体長	体高	D.	A.	綻列鱗	虹 彩
♂	270	224	103	II, 30	27	43	暗褐色、外輪蒼色、内輪銀白色
♀	257	213	95	II, 31	28	43	同上、内輪汚黄色
♀	210	176	78	II, 30	26	46	濃暗褐色、内輪銀白色

♂：頭部（顎、D. の第 1 棘より前方）は一様なる暗緑灰色〔松原氏では青紫色〕で、それに眼前の凹味長さ凡そ 20 mm の外に 5 凹線あって、これに ultramarine blue を有す。外

の残部は大体帶紫淡茶褐色〔岡田・松原氏では橙黄色〕で頭との境は鮮明である。腹方は色淡く、各鱗は網状が明で、多くは 1 点づつの淡蒼色点斑がある。D. の第 1 棘は太く、暗茶褐色(長さ 33 mm), 膜は茶色で、後方は茶赤色が強く、この膜内に D. の第 2 棘(小形が含まれる)。上下唇は真黒色。IID. の軟条膜は半透明の淡灰色で、軟条は上方に向う程、鮮黄色を呈して美麗である。P. は淡褐色。A. は D. と殆んど同色。D. と A. の基部の帶は暗褐色(巾 7 mm 内外の帶をなす)。C. は灰紫赤色で上下及び叉部の縁は鮮眞紅色で上下葉の亜帶は灰色、叉部の亜縁帶は鮮白色である。

♀：顔部は稍々黒味勝ちの程度で、残部との境は鮮明でない。眼先きの凹線は長さ 14 mm の外、♂と同様の 5 凹線には蒼色を有するが程鮮でない。体の残部は緑灰色で網目鱗は明瞭である。但し淡蒼色点は少なく、中央に少しあるのみ。D. と A. とは♂の黄色部が暗黒褐色で代置され、幾分紅色を加味する。D. と A. の両方の基部の帶は暗褐灰色(巾 5 mm 内外)で、C. は暗灰黃色で、上下及び叉部の縁は♂の紅色の部は gamboge-yellow で代置され、上下葉及び叉部の亜縁帶は濃灰色となる。D. 第 1 棘は長さ 24 mm で可なり短く、他は同色である。

この稀魚は相模湾(三崎)・駿河湾(動・雑, 61(6), 1952)・伊豆・伊豆七島(八丈)・四国にて知られる外は東印度(Polynesia には多い)、印度洋・メキシコ及び大西洋熱帶部へ分布する。蒲原教授(1940)によれば全長 130~300 mm を測る。我入道及び静浦方言でタバコボンという。これは殻が利用される為めの名であり、漁夫は肉を食用とする。

(148) サラサハギ *Navodon tessellatus* (GÜNTHER). 1946 年 1 月 18 日千本沖手縄 70~80 尋の漁獲物中に只 1 点(全長 192 mm, 体長は体高の 2½ 倍位)を見出して入手した。体の地色は蒼白色で、吻部は褐灰色で無斑。眼先きの中部以下には灰黄色の虫喰形斑があり、各斑

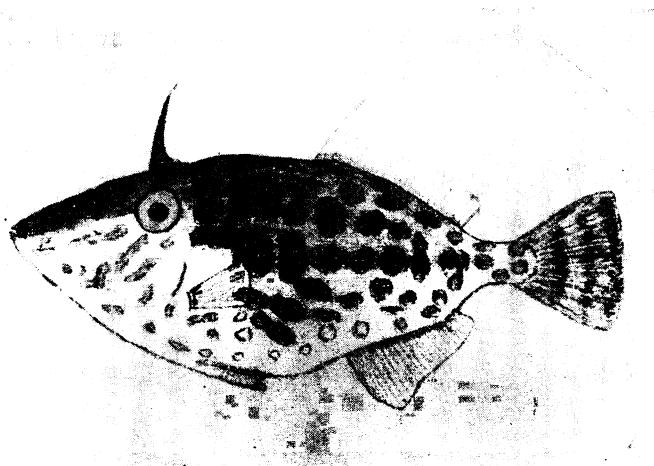


Fig. 3. サラサハギ 千本沖[全長 192 mm. 著者原図]

間は淡蒼色を帯びる。腹方に向う程、灰黄斑は円点となるが次第に不判明となる。下頸及び喉前縁は擬白色の無斑である。体側には約 5 縦列をなす暗褐灰色の大斑があり、尾柄に達するが多少小形となる。最大斑径は眼径の 2/3 を占める。(眼径は最大斑の 1½ に当る)。ID. は 1 棘で褐灰色の膜皮で覆れる。P. は短く白色。IID. 軟条と A. とは黄色で、基部は共に多少灰色を帯びる。C. は帶オリブ黄色で、先端が円味があり、擬黑色縁があり、中部と先端近くとは不明瞭な 2 暗色横帶を存する。虹彩は金色。

これも南方系のもので相模湾・駿河湾（「生物」1947）・新潟・土佐（蒲原氏 1950）・フィリピン等に分布。

(149) コンゴウフグ *Ostracion (Lactoria) cornutum* (L.). 1946 年 10 月及び 11 月に 3 点入手、表記すれば

産地	全長	体長	最大巾	最大高	額突起	後方突起	尾柄基部より尾端
桃郷	58.5	41.5	26.5	25	14.5	14.5	20.5
志下	52.5	35.5	22	20.5	13.5	16	19
志下	45	35.5	22.5	19.5	14.5	14	11.5

何ぞれも幼魚で、手縫網に入ったもの。活魚の体はオリーブ黄色の地に腹面の硫黄黄色との境附近は飴色となる。眼下と P. 附近から後方突起迄の間に約 4 条の虫喰状暗褐色の線があり、後方では少しく上方にも及び、D. 附近にも 1 暗条を示す。尾柄に 1~2 個の暗点がある。眼の後方から体側・吻・腹面近く迄の間に淡蒼美小円を散在し、眼後方の 1 個は少し長味斑となる。額及び後方の 2 対の突起は頗る長く（測定参照）、前方のものは多少紫紅色を帶び、後方のものはオリーブ色である。背面上部は暗褐色の地に約 2 縱列に並んだ美しい暗 ultramarine blue の小円斑があるが、地色が暗い為め、熟視しないと見えない。各鰓 (D., P., A.) は淡色殆ど無色透明、C. は多少汚オリーブ黄色を帶びる。体色は幼魚の為めか、中幼魚のものより飴色が強い。虹彩は濃暗褐色、内輪は寧ろ巾広く且つ鮮黃金色を呈する。

(150) イトマキフグ *Aracana (Kentrocapros) aculeatus* (HOUTTUYN). 1946 年 10 月 31 日千本沖手縫網に入った稚魚 1 点を入手した。体は淡黃金黃色に暗色小円点を散在して美しく、成魚の如き棘を全く有していない。体のかどは円味が多い。虹彩は褐黃色、内輪は黃金色である。

又 1948 年 2 月 9 日桃郷で新鮮の 1 中幼魚（全長 46 mm）を得た。吻から眼下は淡汚桃色を帶び、体は汚灰白色の地色で、稚魚の如き黃色がない。背上で体側中部迄には黒円点が頗る明瞭にあり、体の棘状突起は極めて低く、成魚と稚魚（棘なし）との中間の形状を示している。凡ての鰓は淡色で透明、A. は多少黃色を帶びる。虹彩は黃金黃色である。

(151) ナメラフグ（マフグ） *Fugu vermicularis porphyreus* (T. & S.). 玳に報告するものは従来ショウサイフグ (*F. v. vermicularis* (T. & S.)) の幼魚と誤認されていたもので、阿部宗明博士の教示によりナメラフグの幼魚であることに決した個体である。相模湾同様に駿河湾でも普通である。採集地は鈴川地曳（中沢蒐集品、1929）、志下シラス網（1945~1952, 7 点）、桃郷小曳網（1946~1947, 2 点）、及び獅子浜（1948, 1 点）である。

背面の地色は黒褐色又は個体により暗褐色で、淡灰銀色又は蒼白色の円斑及び擬円斑或は長味斑が多い。眼下から体側にかけ虫喰斑の著しいものと然らざるものとあり、後者は中幼魚か幼魚に多い。腹面白色との境界には鮮黃色の 1 縱帶があり、この直上の体側には暗銀色を帶びる。P. は黄色（中幼）又は橙黃色（中魚）で、上方半分はオリーブ黄色。D. は尖り、オリーブ灰色。A. は白色で先 1/3 は鮮黃色（中幼）又は基部白色で先 2/3 が鮮黃色（中魚）。C. はオリーブ灰色で、基部は淡く、先端は暗色（中幼）又は基部が帶黃肉色で、先 2/3 又は 1/3 が暗色（中魚）。C. は半月形のもあるが、多くは開かないときで、開けば截形となる。体の背腹面共全く無鱗。P. 上方の黒大斑は明瞭で、左右分離するが、その全く分離しているものは寧ろ少な

く、多くは背方で多少の微かなる連続を示している。D. 基底から下方へ 1 大黒斑があるが、胸斑よりは稍々不判明である。調査したものの測定は全長 96~215 mm, D. 12~14, 16 (1 例), A. 12~13。

上掲最後の獅子浜 (1948 年 1 月 22 日入手、全長 215 mm, D. 16) は斑後に異常が見られるので次に記述する。虹彩は黃金色。背面は暗黒褐色の地に蒼白色の粗点を散在する。この斑

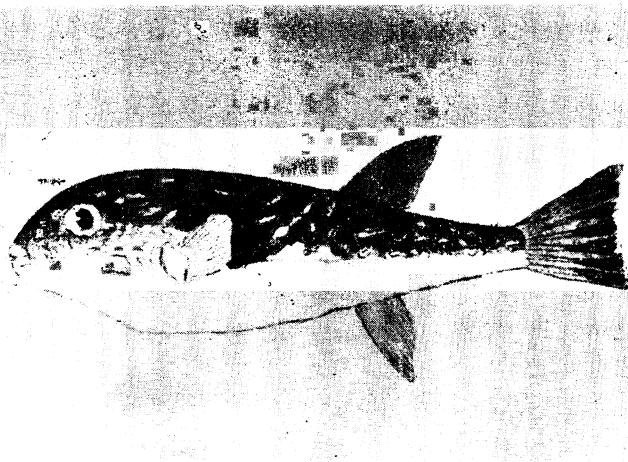


Fig. 4. ナメラフグ (マフグ) 全長 215 mm. 沼津市獅子浜
異常斑の例 (?) 著者原図

点の形は多くはマガタマ形や長味点で、少しあはヘチマ形のもあり、眼後下部や体側中央部下部の斑は多少虫食状斑に傾く。眼の前下方や後下方は灰色となる。P. 部の 1 大黒斑は微かに左右連続の傾きあるにすぎないで、明瞭に分たれる。D. 基部の黒斑は少量。体側に一般ナメラフグ幼魚に見る 1 黄縦帯は全く認められず。D. は深オリーブ色、P. は淡オリーブ黄色、A. は黄色で、先端に微かな灰色を少し帶びる。C. はオリーブ色で、先半は黒い。体には上下面共全く無鱗。腹面は純白である。一見してナメラフグと異なるが多分同種の異常斑の稀例かと思われる (第 4 図参照)。



Fig. 5. モヨウフグ 幼魚
腹を円くしたもの (72.5×68 mm.)
志下沿岸で漁獲 著者写真

(152) モヨウフグ *Tetraodon (Arothron) stellatus* (BLOCH & SCHNEIDER). 1958 年 8 月 23 日志下沿岸シラス網に入った 1 幼魚 (全長 87, 体長 68 mm) を入手した。これの新鮮色は背面褐黒色でそれに白小棘を密布する。C. は黄色に黒斑がある。背面は体を円形 (大きさ 72.5×68 mm) にせしむれば灰色地に大小不同的多くは小型の黒点を密布するのが見られる (第 5 図参照)。各鰓は C. を除き美しい黄色。腹面は美黄色の地に不定形の黒帶が縦走し、各帶は所々で連絡して網目状に近くなる。円形のとき口から顔の辺は灰白色の地色となり、黒斑を密布する。虹彩は橙黄色。肛門の周囲は黒く、腹

面の棘は白いのもあるが、腹の中央部のは大部分は黒い。この個体はカタクチシラス（上下顎の差少いもので、全長 23~27 mm）を網の内で多数呑んでいたものであり、このフグを海水に入れたらシラスを沢山に吐出した。夫故空気ばかりでなく水も可なり呑んでいたものと思う。

又 1941 年 8 月 28 日に志下沿岸で漁獲された稚魚（標品番号 230）は全長僅かに 23 mm のもので、全身は真黒に近く、喉にだけ点状の淡黄斑がある。体を円くすれば球形に近い。C. は無斑の淡黒、他の鰓は淡色である。馬場豊司の採集に係る。静浦方言でゴムマーリというが、誠によく当て嵌る名と思う。この稚魚は捕獲後淡水に泳がして置いたところ 2 時間位は生きていた。この間数度体を円形にして硬くなった。このときは C. も殆んど見えない位に縮ぢめる。

成魚は全長 600mm (浦原氏) にも及ぶというが幼魚は古くは別種と考えられ *T. aerostaticus* (JENYNS) の名で呼ばれたこともあった。分布は本州中部から南支那海、東印度、アフリカ、濠洲、タヒチ等に及んでいる。

(153) ハリセンボン *Diodon holacanthus* (L.). 1947 年 4 月 2 日に桃郷・志下沿岸は南風強烈に見舞われた。その翌 4 月 3 日に桃郷海岸に打上げられていた成魚 3 点を見、大 1 点 (全長 255、体長 215 mm) を入手した。虹彩は変色して不判明。凡ての鰓は汚オリーブ色 (岡田・松原, pl. 110, fig. 1 とは異なる)。背面は暗褐色に黒円斑があり、背方の針の皮は褐色又は黒色 (少し) で、先方の露出針は白色。腹面は黄白色で、針は白く、針基部の皮に黒斑がある。P. の基部の皮には外方、内方共に 5~6 個の黒円斑があるが小形である。

又東京市場 (1953 年 9 月 21 日入手、全長 137 mm) の例では背面は灰色地に黒円斑ある外、両眼から頭中央に向って黒斑があり、頭・背の中央から下方及び D. の基部に夫々大黒横帶があり、又 P. の一寸上部にも 1 大黒斑を有する。針は前記桃郷の場合と同様。D. と P. は白灰色、A. は白色に微妙に桃色を帯び、不判明の細縦線と基部に灰色の縦輻斑がある。腹面は白堊的に白く、針も白く、体側には小黒斑が少数ある。虹彩は淡鈍黄色である。この個体は桃郷のものより少々、且つ普通に見られる色彩のものである。

Résumé

The part ten of this series contains descriptions of life colors of the species Nos. 144 to 153, with some interesting notes on *Xanthichthys lineopunctatus* from Zensu Island (lat. 30°56' N., long. 138°49' E.), *Navodon tessellatus*, *Tetraodon stellatus*, etc. from Suruga Bay.